

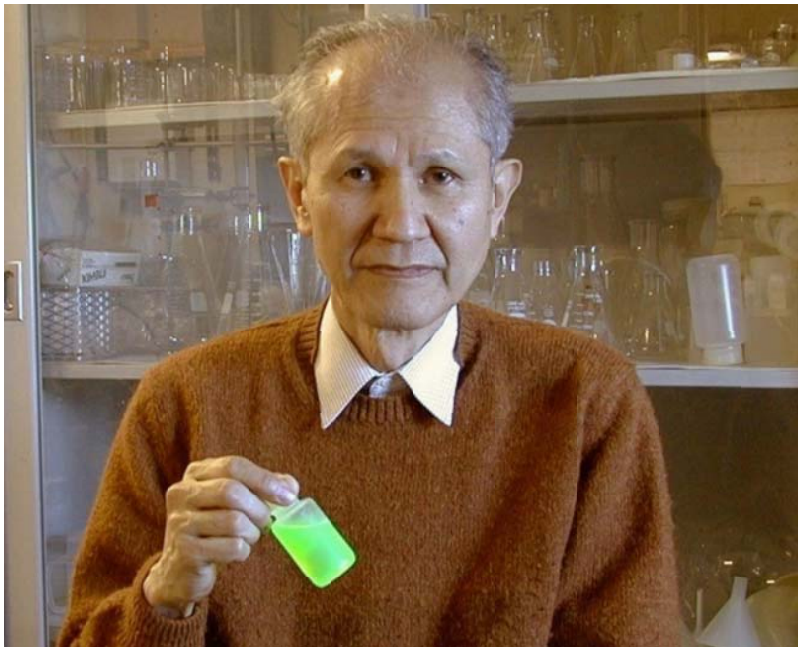
ノーベル化学賞に下村氏



〒030-0180
青森市第二問屋町3丁目1番99号
東奥日報社
電話 017-739-1111
(C)東奥日報社 2008

インターネット
号外

購読の
お問い合わせは
東奥日報社読者局
017-739-1500
24時間受付



オワンクラゲから精製した蛍光タンパク質GFPの入った小瓶を手にする下村脩氏

「共同」科学アカデミー賞を、8年連続で受賞した。下村脩氏は、オワンクラゲから抽出した蛍光タンパク質を発見し、その遺伝子を解析し、遺伝子工学を用いて、さまざまな色に発光するタンパク質を開発した。この成果は、分子生物学の発展に大きく貢献したと認められ、ノーベル化学賞を受賞した。下村氏は、現在、東京大学で研究を続けている。

下村脩氏は、オワンクラゲから抽出した蛍光タンパク質を発見し、その遺伝子を解析し、遺伝子工学を用いて、さまざまな色に発光するタンパク質を開発した。この成果は、分子生物学の発展に大きく貢献したと認められ、ノーベル化学賞を受賞した。下村氏は、現在、東京大学で研究を続けている。

蛍光タンパク発見 生命科学研究で功績

下村脩氏(しもむら・おさむ)1928年8月27日、京都府生まれ。幼少期を満州国に過ごし、陸軍将校の父に従って、幼少期を満州国に過ごし、市へ移り、16歳で長崎県に下され、長崎大学医学部を卒業。現長崎大学薬学部の教授。研究分野は、分子生物学。オワンクラゲから抽出した蛍光タンパク質を発見し、その遺伝子を解析し、遺伝子工学を用いて、さまざまな色に発光するタンパク質を開発した。この成果は、分子生物学の発展に大きく貢献したと認められ、ノーベル化学賞を受賞した。下村氏は、現在、東京大学で研究を続けている。

下村脩氏(しもむら・おさむ)1928年8月27日、京都府生まれ。幼少期を満州国に過ごし、陸軍将校の父に従って、幼少期を満州国に過ごし、市へ移り、16歳で長崎県に下され、長崎大学医学部を卒業。現長崎大学薬学部の教授。研究分野は、分子生物学。オワンクラゲから抽出した蛍光タンパク質を発見し、その遺伝子を解析し、遺伝子工学を用いて、さまざまな色に発光するタンパク質を開発した。この成果は、分子生物学の発展に大きく貢献したと認められ、ノーベル化学賞を受賞した。下村氏は、現在、東京大学で研究を続けている。

詳細は朝刊で